

授業科目名	クリティカルケア看護演習Ⅰ <i>Seminar in Critical Care Nursing I</i>		担当教員		
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	60(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	演習	使用教室	
授業の目的	クリティカルな状況にある患者の回復に向けた、ケアとキュアが融合した介入、および家族に対する援助的かかわりについての実践力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルな状況にある患者の症状緩和をめざし、ケアとキュアを融合させた高度な看護の提供ができる。 2. エビデンスに基づいた日常生活援助方法について理解できる。 3. クリティカルな状況にある患者、家族に対し、援助関係論や家族看護論を基盤にした適切な心のケアが提供できる。 				
授業計画	<p>本授業では、高機能シミュレーターを用いた演習を中心に、患者の症状回復、および患者と家族の心理的安寧のための援助方法の修得をめざす。</p> <p>1回 : 生体侵襲理論、身体的ストレス理論を踏まえた患者の特徴、ケアとキュアのあり方</p> <p>2～3回 : 循環を安定させるためのケアとキュアの実際①</p> <p>4～5回 : 循環を安定させるためのケアとキュアの実際②</p> <p>6～7回 : 呼吸を整えるためのケアとキュアの実際①</p> <p>8～9回 : 呼吸を整えるためのケアとキュアの実際②</p> <p>10回 : 日常生活援助のエビデンス</p> <p>11～12回 : 日常生活援助のエビデンス：院生によるプレゼンテーション準備</p> <p>13～14回 : 日常生活援助のエビデンス：院生によるプレゼンテーション</p> <p>15回 : リラクゼーションをめざしたケア</p> <p>16～17回 : リラクゼーションをめざしたケア：院生によるプレゼンテーション準備</p> <p>18～19回 : リラクゼーションをめざしたケア：院生によるプレゼンテーション</p> <p>20回 : 患者、家族の心のケア：家族看護論</p> <p>21～23回 : 心のケアの実際(患者事例)：院生によるプレゼンテーション準備</p> <p>24～26回 : 心のケアの実際(家族事例)：院生によるプレゼンテーション準備</p> <p>27～28回 : 心のケアの実際：患者事例検討：院生によるプレゼンテーション</p> <p>29～30回 : 心のケアの実際：家族事例検討：院生によるプレゼンテーション</p>				
学習方法	本授業では、高機能シミュレーターを用いた演習を中心に、患者の症状回復に向けた援助方法の修得をめざす。また1～9回目の演習は、専門科目の「クリティカルケア看護特論Ⅲ」を、20～30回目は、「クリティカルケア看護特論Ⅰ」の内容を十分に復習し、理解したうえで臨む必要がある。				
オフィスアワー					
テキスト	毎回の講義で提示する				
参考文献	山勢博彰：救急・重症患者と家族のための心のケア。大阪，メディカ出版，2010。 道又元裕：重症患者の全身管理。名古屋，日総研出版，2009。				
評価方法	担当したプレゼンテーションの内容(70%) 授業への積極的参加度(30%)				